

Ⅲ. 財務の概要

1 資金収支計算書の概要

(資金収支計算書から見た概要及び前年度との対比)

資金収支計算書は、その会計年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日）の教育研究活動に対応する資金の使途（資金支出）と資金調達（資金収入）のすべてを明らかにすることを目的としています。

各科目の主な内容は、次のとおりです。なお、文中の金額は、万円未満を四捨五入して表示しているため、計算上一致しない場合があります。

【資金収入の部】

(1) 学生生徒等納付金収入

前年度比 2,066万円増の45億5,108万円となりました。

学園全体の学生・生徒等総数は、前年度比108名減の4,961名で、内訳として短期大学部89名減が大きく影響しています。部門別納付金の前年度比では、短期大学部1億106万円減となりましたが、大学7,587万円、岐阜聖徳学園高校1,750万円、附属中学校779万円、附属小学校1,839万円及び附属幼稚園217万円増となりました。

(2) 手数料収入

前年度比 1,369万円減の1億2,802万円となりました。

この科目の主たる収入は、平成28年度入学志願者の検定料収入であり、部門別の前年度比では、大学1,052万円、短期大学部187万円及び岐阜聖徳学園高校237万円減となりました。

(3) 寄付金収入

前年度比 1,843万円減の4,649万円となりました。

寄付金の内訳は、大学後援会などからの特別寄付が前年度比2,597万円減となりましたが、短期大学部同窓会及び個人などからの一般寄付が前年度比754万円増となりました。

(4) 補助金収入

前年度比 102万円減の9億6,274万円となりました。

国庫補助金は、私立大学等経常費補助金が前年度比1,146万円増となりましたが、文部科学省からの教育設備整備費補助金等は前年度比2,189万円減となりました。

また、地方公共団体補助金は、岐阜県教育振興費補助金が前年度より増額したことから前年度比941万円増となりました。

(5) 資産売却収入

前年度比 2億5,779万円増の9億2,309万円となりました。

投資信託などの資金運用を行った結果、有価証券売却収入が増額となりました。

(6) 付随事業・収益事業収入

前年度比 111万円増の9,536万円となりました。

聖徳自動車学園からの収益事業収入は、前年度比200万円減となりましたが、教員免許状更新講習などによる受託事業収入は、前年度比311万円増となりました。

(7) 受取利息・配当金収入

前年度比 570万円減の4,581万円となりました。

(8) 雑収入

前年度比 2億2,099万円増の4億6,424万円となりました。

主な増加は、退職金の財源となる私立大学退職金財団及び岐阜県退職金社団からの交付金が、退職者の増により前年度比1億9,706万円増となりました。また、大学における学生駐車場利用料や附属中学校及び附属小学校における生徒送迎用バス駐車場利用料などの増額により施設設備利用料収入が前年度比2,203万円増となりました。

(9) 前受金収入

前年度比 4,154万円減の8億6,120万円となりました。

平成28年度入学生の入学金収入が前年度比2,148万円減となるなど他の前受金納付金収入も減となりました。

(10) その他の収入

前年度比 14億5,604万円減の3億9,058万円となりました。

主な減少は、看護学部棟建設などの支払資金を確保するため、前年度に学園維持引当特定資産等から14億2,000万円繰り入れていたことによるものです。

【資金支出の部】

(1) 人件費支出

前年度比 4億5,138万円増の41億6,003万円となりました。

主な増加は、教職員の人件費が前年度比1億7,793万円増となり、また、退職金は、退職者の増により前年度比2億6,944万円増となりました。

(2) 教育研究経費支出

前年度比 9,760万円増の12億7,690万円となりました。

主な内容は、岐阜聖徳学園高校南舎及び北舎壁面等修繕工事などの修繕費やパソコン教室等の情報機器更新に伴う消耗品費等が前年度比増となりました。

また、附属中学校及び附属小学校における生徒送迎に伴う生徒輸送費が増額となりました。

(3) 管理経費支出

前年度比 1,666万円増の3億9,935万円となりました。

主な内容は、短期大学部50周年記念事業の実施に伴う経費や羽島キャンパス用水ポンプ井戸小屋新設及び撤去に伴う経費があり、前年度比増となりました。

(4) 借入金等利息支出

前年度比 58万円減の137万円となりました。

(5) 施設関係支出

前年度比 14億2,710万円減の1億5,810万円となりました。

主な内容は、羽島キャンパス河川敷総合グラウンド照明設備及びトイレ新設工事、附属幼稚園園舎増築や短期大学部保育実習指導演習室設置に伴う改修工事がありました。

また、大学周辺用地確保に伴う土地取得経費が含まれています。

(6) 設備関係支出

前年度比 1億9,986万円減の1億9,675万円となりました。

主な内容は、看護学部設置に伴う9号館の備品購入、パソコン教室等の情報機器更新に伴う整備費用や短期大学部保育実習指導演習室の備品購入がありました。

(7) 資産運用支出

前年度比 2億5,160万円増の6億9,948万円となりました。

投資信託などの資金運用を行った結果、有価証券購入支出が増額となりました。

(8) その他の支出

前年度比 1億751万円減の4億6,490万円となりました。

主な減少は、前年度において前期末未払金支払支出（退職者増に伴う退職金）が多額であったことによります。

2 活動区分資金収支計算書の概要

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書を「教育活動」、「施設整備等活動」と「その他の活動」の三つの活動区分に区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにすることを目的としています。

(1) 教育活動による資金収支の状況

「教育活動」の収入は、学生生徒等納付金収入、手数料収入、寄付金収入、補助金収入などです。寄付金収入及び補助金収入のうち、施設設備に係る寄付金、補助金は、「施設整備等活動」の収入に区分されます。

「教育活動」の支出は、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出です。

平成27年度の教育活動資金収入計は、62億74万円、教育活動資金支出計は、58億3,628万円で、差引3億6,446万円となり、調整勘定等5,792万円を加味した教育活動資金収支差額は、4億2,238万円となりました。

(2) 施設整備等活動による資金収支の状況

「施設整備等活動」の収入は、施設設備補助金収入など施設設備の整備を目的としたものです。「施設整備等活動」の支出は、施設・設備関係支出、特定資産繰入支出です。

平成27年度の施設整備等活動資金収入計は、2,737万円、施設整備等活動資金支出計は、3億7,267万円で、差引△3億4,530万円となり、調整勘定等△969万円を加味した施設整備等活動資金収支差額は、△3億5,499万円となりました。

また、教育活動資金収支差額と施設整備等活動資金収支差額の計は、6,739万円となりました。

(3) その他の活動による資金収支の状況

「その他の活動」の収入は、受取利息・配当金収入などです。「その他の活動」の支出は、借入金等返済支出、借入金等利息支出などです。

平成27年度のその他の活動資金収入計は、11億5,460万円、その他の活動資金支出計は、9億8,256万円で、その他の活動資金収支差額は、1億7,205万円となりました。

以上の結果、支払資金の増減額は、2億3,944万円となり、前年度繰越支払資金18億8,026万円を加えた翌年度繰越支払資金は、21億1,969万円となりました。

3 事業活動収支計算書の概要

(事業活動収支計算書から見た概要及び前年度との対比)

事業活動収支計算書は、「教育活動」、「教育活動以外の経常的な活動」と「臨時的活動」の各活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするとともに、「基本金組入額」を控除した当該会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡状態を明らかにすることを目的としています。

(1) 経常収支（教育活動・教育活動外収支）の状況

学生生徒等納付金、手数料、経常費等補助金などの教育活動収入は、前年度比2億573万円増額となり、62億429万円となりました。人件費、教育研究経費、管理経費などの教育活動支出は、前年度比6億460万円増額となり、64億5,610万円となりました。その結果、教育活動収支差額は△2億5,181万円となり、教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合算した経常収支差額は△1億8,737万円となりました。

(2) 特別収支の状況

施設整備に係る現物寄付や補助金などの特別収入は、前年度比△69万円減額したことにより5,583万円となりました。特別支出は、学園が保有する土地の評価替えによる資産処分差額3,056万円、大学及び短期大学部における図書館蔵書点検整理による図書除却費4,424万円などが増額したことにより8,686円となりました。その結果、特別収支差額は、△3,104万円となりました。

(3) 基本金組入前当年度収支差額

経常収支差額と特別収支差額を合算した基本金組入前当年度収支差額は、前年度比4億8,046万円悪化し、△2億1,841万円となりました。

(4) 当年度収支差額・翌年度繰越収支差額

基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計3億6,619万円を差し引いた当年度収支差額は、△5億8,460万円となりました。

前年度繰越収支差額△49億7,659万円と当年度収支差額を合算した翌年度繰越収支差額は△49億7,659万円から△55億6,119万円となりました。

4 貸借対照表の概要

(貸借対照表から見た概要及び前年度との対比)

貸借対照表は、期末における財政状態を示しています。資産がどのような調達源泉、すなわち負債（借入金等）、基本金（自己資金により調達した額）及び繰越収支差額によってまかなわれているかを表示しています。

(1) 資産の状況

年度末の資産の部合計は、250億9,210万円で、前年度末に比べて2億522万円減となりました。

有形固定資産は、前年度末より4億1,871万円減の180億6,700万円となりました。主な要因は、土地の評価替えによる資産処分、図書除却や建物等の減価償却資産の減少によるものです。

特定資産は、前年度末に比べて1,781万円増の23億6,800万円となりました。

その他の固定資産は、前年度末に比べて2億5,614万円減の19億9,511万円となりました。減少の要因は、有価証券の計画的な償還によるものです。

流動資産は、4億5,182万円増の26億6,200万円となりました。増加の要因は、流動性資産を確保するための有価証券売却によるものです。

(2) 負債の状況

負債の部合計は、34億3,289万円で、前年度末に比べて1,318万円増となりました。

固定負債は、借入金等の減少により前年度末に比べて2億5,937万円減の16億4,924万円となりました。平成27年度末の借入金の残高は、3億8,000万円となりました。

流動負債は、未払金等の増加により前年度末に比べて2億7,256万円増の17億8,365万円となりました。

(3) 純資産の状況

純資産の部合計は、216億5,921万円で、前年度末に比べて2億1,841万円減となりました。

基本金は、平成27年度に3億6,619万円を組入れたことにより、272億2,040万円となりました。

繰越収支差額は、事業活動収支計算の結果、5億8,460万円減となり55億6,119万円の繰越収支超過となりました。